

が異なる男子による異年齢集団とした。

(2) 指導援助者

指導援助者は、HFTクラブ2名の専任担当員があたった。

(3) 実施時期及び期間

実施の時期は、指導援助期間（5カ月）の中期から後期の段階に行い、実施期間は、2泊3日とし、児童生徒が宿泊体験学習になじみ、互いに自分の感情を自由に出し合い、のびのびと活動して、指導援助の所期の目的が達成できるよう配慮した。

(4) 実施場所及び活動内容

実施の場所は、海岸等の自然が十分活用できる「福島県海浜青年の家」（相馬市）を利用し、施設の特徴を活用しながら、スポーツ的活動、生活的活動、創作的活動等を行った。

(5) 評価について

評価については、児童生徒の変容を把握するために、児童生徒の振り返りの様子や感想、さらに専任担当員のチェックリストによる観察法を取り入れた。

3 指導援助の実際

砂の芸術（創作的活動）と野外炊飯（生活的活動）の二つの実践を取り上げて紹介する。

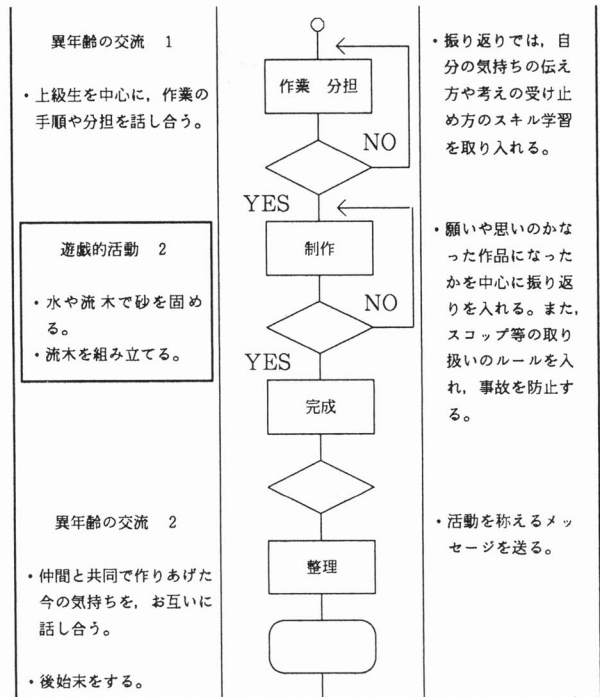
(1) 砂の芸術（創作的活動）

① ねらい

- ・ 遊戯的活動により児童生徒の不安、不満を解消しながら心理的な安定を図り、生き生きした活動を引き出す。

② 活動

| 活動の内容 | 活動の流れ | 指導援助 |
|---|-------|--|
| <p>遊戯的活動 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仲間と砂浜を歩く、走る。 ・ 作品づくりに必要な材料を砂浜から集める。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 砂や流木での作品づくりを確認する。 ・ 児童生徒の自由な会話から作品のイメージ化を図る。 ・ 砂浜に散在する物を創作的活動の遊具とする。 |

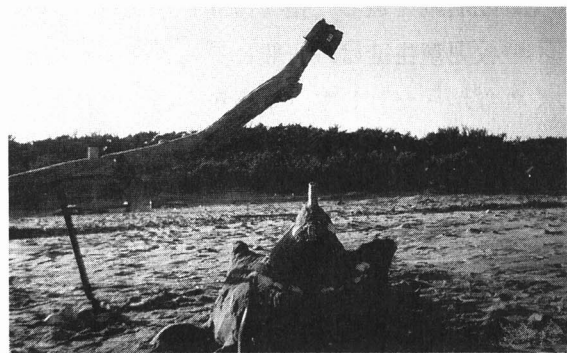


[◇の表示は児童生徒と指導援助との振り返りを表す。]

③ 実践から

遊戯的活動 1

指導援助者と肩を組み、言葉を交わしながら太平洋を眺めたり、砂浜に腰を下ろして、音楽を聞いたりして遊戯的活動を行ったが、最初は、緊張感から、静かな雰囲気であった。しかし、上級生が下級生の後ろ姿に、砂掛けをしたことをきっかけに、本来の活気がよみがえり、波うち際に走り、寄せる波に喚声をあげる者、拾い集めた貝殻の模様や流木の形を仲間にも自慢げに語りかける者等、次第に、心理的解放が進み、不安が薄らいでいく様子が見られた。



*「砂の芸術」の作品：自分たちの安全を祈願して作った「守護神」